

【教育目標】

【知】自ら学び、考え、進んで行動する人

【徳】互いを尊重し、協力する人

【体】心身ともにたくましく健康な人

杉並区立中瀬中学校

下井草4-3-29 TEL 3399-2196

特別支援教育と運動会

校長 香西雅斗

科学と自然の散歩みちの緑が濃くなり、ツツジやバラが目を楽しませてくれたかと思うと、もうアジサイが満開となり、ビワの実が色づいて来ました。今年の春は足早に去っていったようです。

さて中瀬中の特色の一つであった通級指導学級「中瀬学級」は、今年度から特別支援教室「中瀬学びの教室」となりました。これは本校だけではありません。杉並区全ての中学校で、今年から「学びの教室」がスタートしたのです。

それぞれの学校の生徒が「中瀬学級」に通ってきて学習の仕方やソーシャルスキルのトレーニングをするシステムが、教員がそれぞれの学校の「学びの教室」に行くシステムに変わったのですが、その背景には特別支援教育の理念を学校に、ひいては社会全体に浸透させていくという大切な狙いがあります。

まず確認しておきたいのは、特別支援教育は、特殊な子供のための教育ではない、ということです。全ての子供が、一人一人の特別な課題に挑戦していく、それを支援していくのが特別支援教育です。支援や指導が特別なのではなく、一人一人のニーズ、課題がスペシャルなのです。

そして、目指しているのは

「人の価値が、能力や人柄、まして経済力や容姿で決まるのではない。自分と違う人や文化を認めそこから学び、自分の苦手なことや課題に勇気をもって挑戦していく。そんな姿勢で違いを許容し、お互いを認め合いえる、学級・学校・社会。」です。

これまでの日本の学校・社会には同質化指向がありました。例えば漢字を覚えるのが苦手な子がいれば、一定のレベルに引き上げることを目標に、書き取り練習をさせてきました。そのことが、できない子を認めない、ひいては「違い」を排除する傾向や、同質性を前提にした競争に結びついていたことは否定できません。

学校で行う運動会の大ムカデは、運動が得意、不得意に関わらず全員参加です。運動会は「クラスのまとまりや団結」に高い価値を置いている点で、これまでの日本の学校を象徴する行事と言えます（合唱コンクールも）。だからこそ最近「運動が苦手な子を苦しめる運動会を行う意義はあるのか。」「いつまで運動会を行うのか。」という議論がされているのだと思います。

人は苦しいことを乗り越えることでたくましくなります。そして人間の脳は失敗からしか学びません。でも、もはやそれだけで「運動会は必要」と言ってすませることはできないのも確かです。

中瀬中の運動会が、運動が苦手な生徒にとって苦痛だけなのか、それとも特別支援教育の理念をも包含するものになっているのかは、生徒たち自身が審判するところだと思います。

体育大会を振り返って

体育大会の様子は、次の号であらためて紹介します。まず下の二人の作文をお読みください。

最高の宝物 3A 辻野 糸葉

なんで体育大会なんてあるの？そんなことを考えてももちろん現実が変わるわけもなく、今年も大嫌いな行事がやって来ました。運動が苦手な嫌いな私にとって、体育大会は一番の大きな壁です。運動ができない私は運動が得意な人に迷惑をかけてしまうのが申し訳なく、それがすごく嫌でした。...

私が出た三人四脚は、練習ではうまくいったのに、本番は三位でした。クラスの皆に申し訳ないと思い、ごめんねと言いました。すると、大丈夫だよと言ってくれたので、気持ちを引かず、切り替えて頑張ろうと思えました。

次の種目の長距離が始まりました。A組は全員が立つて前に出て全力で応援しました。一二年の選手にも、応援の中にその選手の名前を入れたり、練習してない応援歌を歌ったりしました。...

私は今まで、ここまで応援に力を入れた体育大会を見たことがありません。みんなが一つになれるというのは、こんなにも楽しく嬉しく、気持ちの良いものだと思いました。あの感動は今でも忘れません。...

失敗したりうまくいかなくて落ち込んでしまっても、生徒席に戻って来た時、ミスを責めずみんながカバールをしていこうという雰囲気だったり、全員が全力で応援してくれるクラスや団なら、次頑張ろうと思えます。青団はまさにそんな感じでした。...

応援には運動神経は関係ない、私は自分でできることは精一杯やろうと思ひ、全力で頑張りました。



<3年生全員リレーを応援する1・2年生>

最後の選抜リレーで全クラスが

ゴールした時、達成感でいっぱいでした。結果はこれから分かるけど、もう別に何でもいいやと思うほど、満足していました。あんなに嫌だったはずの体育大会をすごく楽しんでいました。

はじめは自分が信じられなかったけれど、こんなに楽しめたのは、実行委員をはじめ、良い雰囲気を作ってくれた皆のおかげだったと思います。嫌いなことも、全力でやればこんなに楽しめるんだと学びました。...

この体育大会の思い出は、一生忘れない、私の宝物になりました。

中瀬中の生徒たちは、もちろん自分のクラスや団の勝利を目指しています。でも同時に「勝つことよりも大切なことがある。」「運動が苦手な者が、大変だったけれども、この仲間と一緒に良かったと言えることを目指そう。」としています。

そして、自分の団の仲間を学年を越えて応援する、同じ学年の仲間クラスを越えてエールを送る、そんな体育大会ができるように中瀬中はなってきました。

生徒たちが、一人一人、そして集団としても輝く中瀬中をこれからも目指していきます。

体育大会への気持ち

3D 北村 真韻

自分は昔からずっと運動会が嫌いだ。なぜわざわざ好きでもないんでもない「走る」ということを、大勢の人が見ている中でやらなくてはならないのか、足の遅い自分がとろとろはしている姿を見せなければならぬのか全く分からない。...

しかし、そんな気分でも自分なりに本気で頑張ったものがある。それは応援だ。旗を振ってのどが痛くなるまで大声で叫んだ。...

いのちの教育 全校道徳

6月17日（月）の1時間目は体育館で全校道徳を行います。

全校道徳は、スペシャルオリンピックスのバレーボールのアスリートと保護者の方、コーチをお招きし、山ノ内凛太郎さんたちに司会をお願いし「障害って何だろう」「苦手・不得意なことに挑戦する」をテーマに異学年の小集団で考えていきます。

保護者の方もどうぞご参観ください。

スペシャルオリンピックスとは、オリンピックに準じた色々なスポーツと競技を通じて、知的障害のある人たちが勇気をふるい、家族、地域の人々と感動や友情をわかちあうことを目指した世界的な活動です。